

2018年度学校評価（自己評価と第三者評価）

東海大学附属熊本星翔高等学校

分野	重点目標	取組み計画・内容	自己評価（4段階評価：4. そう思う、3. だいたいそう思う、2. あまりそう思わない、1. そう思わない）					次年度	第三者評価	
			成果	課題	2017年度	2018年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営方針に沿った教育活動を実践する。</li> <li>●地域から高い評価を受ける学校づくりと中学校や保護者に選ばれる学校づくりに邁進する。</li> </ul>	(1) 学校の特色を示す。 (2) 入学したい・させたい学校とする。 (3) 危機管理・安全対策に努める。 (4) 教育に熱心に取り組む。 (5) 施設設備等教育環境の充実に努める。 (6) 保護者対応の充実に努める。 (7) 保護者・地域との連携と情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入学したい、入学させたい学校では、生徒・保護者とも微増しており高い評価を得ている。</li> <li>●学校運営全体に対して保護者からの評価が増加し高い評価を得ている。</li> <li>●教職員の教育・部活動に対する姿勢についての評価は高い。</li> <li>●学校の安全対策、危機管理、教職員の電話や来客対応に対して評価が昨年度を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入学させたい学校として保護者の評価が昨年度を上回り、学校に対するイメージと教育内容の理解が定着しつつあると考える。日頃の教育活動を更に充実させ更なる理解促進が必要である。</li> <li>●危機管理・安全対策の評価では、生徒・保護者の評価と比較して教職員の評価が低い。更なる改善が必要である。</li> <li>●情報発信は一定の評価は得ているが、昨年度を下回った。利害関係者に限定せず広く一般に向けての改善が必要である。</li> </ul>	生徒 3.04	生徒 3.03	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校生活全般における生徒の満足度向上に努め、教育諸活動に対する保護者の理解促進を図る。</li> <li>●危機管理室及び安全衛生委員会を中心に、学校運営に係る様々なリスクに対する管理体制の強化を図る。</li> <li>●安心、安全な教育環境の維持管理に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育活動ならびに学校改革が生徒・保護者に伝わるよう、授業等諸活動の改善を継続実施する。</li> <li>●ICT機器をはじめとする充実した設備を有効活用して授業の質を高める改善・改革を実施する。</li> <li>●HPやSNSなどを利用して教育活動を積極的に情報発信し、本校への理解促進を図る。</li> <li>●地域活動への積極的な参加と通学マナーの向上、挨拶の励行を推進し、地域に認められる学校としていく。</li> <li>●教職員研修を通して、学校運営に係る様々な事象に対応できるよう資質向上を図る。</li> <li>●熱中症指数計測器、雷検知器等を整備し安全管理対策を実施する。</li> </ul>	-	-
					保護者 2.89	保護者 3.12				
					教職員 3.66	教職員 3.16				
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎学力の定着を図る。</li> <li>●授業改革を推進する。</li> </ul>	(1) 基礎学力の定着に努める。 (2) 家庭学習を身につけさせる。 (3) ベストティーチャー制度の充実を図る。 (4) 学習意欲の向上に努める。 (5) 東海大学と連携した授業やプログラムの推進を図る。 (6) 図書館の積極的な利用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導においては、生徒・保護者・教職員すべてにおいて総合評価が減少している。項目別評価では、学力の定着、家庭学習、学習への意欲、図書館利用において、生徒はすべての項目で微減となっているが、教職員は微増となりギャップが生じている。</li> <li>●東海大学と連携した授業やプログラムでは、生徒・保護者ともに評価が減少しており、更なる充実と広報が必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ベストティーチャー制度は、保護者からの評価は得ているものの、生徒の評価ポイントは昨年度を下回り、授業充実という観点からは評価されていないようである。制度の評価システムを再考する必要がある。</li> <li>●図書館の利用において、生徒昨年度の評価ポイントが昨年度を下回り、積極的な利用が出来ていない。</li> </ul>	生徒 2.62	生徒 2.56	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の学習意欲向上のためには、積極的な授業への参加、家庭での課題に留めることなく、自主的な学習の習慣を身につけさせる必要がある。</li> <li>●学習に関する情報発信を積極的に行い、学校と家庭が連携して学習意欲、学力向上を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受験指導ではなく生徒個々の興味・関心を尊重しながら学習意欲を高め、家庭学習の習慣と基礎学力の定着を図る。</li> <li>●授業時数不足などの生徒には、特別補講を通して学習意欲と基礎学力の向上を図る。</li> <li>●特進クラスを中心に学習意欲の高い生徒に対しては、課外や夏期集中講座などを実施し、更なる学力向上を図る。</li> <li>●ICT機器の利用・活用方法を教員に提示し適宜講習会の実施を行う。また、教員のICTに関するスキルアップを図り生徒の学習定着の向上を図る。</li> </ul>	-	-
					保護者 2.81	保護者 2.79				
					教職員 3.03	教職員 2.84				
クラス指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生きる力の育成に励む</li> </ul>	(1) 学級担任、部活動顧問、関係教職員が連携し生徒間の好ましい人間関係の構築に努める。 (2) 生徒の悩みや問題相談に努める。 (3) 楽しいクラス運営に努める。 (4) クラス・学校の一員としての役割・自覚を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス指導において一定の評価は得ているものの、生徒間の良好な人間関係、悩み相談について生徒、保護者ともに評価が微減、教職員のみが微増でギャップが生じている。</li> <li>●楽しいクラス運営は、生徒より高い評価を得ている。</li> <li>●生徒自身が学校・クラスの一員であることの自覚に対して高い評価を得ており、学校に対する帰属意識を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒間の良好な人間関係、悩み相談について、生徒ならびに保護者がともに微減となったことは真摯に受け止める必要がある。特性をもった生徒が増加傾向にある現状を踏まえ、人間関係が原因での不登校や転・退学者の抑制のためにも生徒、保護者のニーズを見極めた指導が必要である。</li> </ul>	生徒 3.15	生徒 3.16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々のホームルーム活動や学校行事を通して、生徒同士が思いやれる気持ちやクラス・学校の一員としての自覚を育むために、学級担任や部活動顧問など関係教員が連携を図りながら、計画的に生徒への働きかけを実施する。</li> <li>●クラス指導では、各調査対象者間での評価にギャップが生じていることから、教職員の自己満足に終わらない指導内容を検討・実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級担任・教科担当教員・部活動顧問など教員間の連携を強化し、生徒の悩みや問題の早期発見と迅速な対応を実施する。</li> <li>●生徒が抱える問題も年々複雑化しており、スクールソーシャルワーカーなど専門家による教員研修を実施し教職員の意識と資質の向上を図る。</li> <li>●学級担任のみならず全教職員で、4かけ運動（声をかける・手をかける・目をかける・心にかける）の充実を図り、クラス運営をサポートする。</li> </ul>	-	-
					保護者 3.10	保護者 3.07				
					教職員 3.06	教職員 3.17				
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活習慣の定着を徹底し、落ち着いた学校生活環境づくりに努める。</li> </ul>	(1) 礼儀や挨拶の励行に努める。 (2) 頭髪・服装など身だしなみと登下校時を含む公共マナーの遵守に努める。 (3) 清掃や整理整頓に努める。 (4) 施設・設備・備品等を大切に使用させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶の励行、身だしなみ、清掃・整理整頓、通学時の公共マナーの遵守など、生活習慣の定着では継続的な指導により、生徒・保護者ともに高い評価を得ているが、保護者の評価ポイントは微減となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活習慣（挨拶の励行、身だしなみ、整理整頓）の定着において、生徒の評価は向上しているが、保護者の評価ポイントは全項目において減少していることから生徒と保護者間でのギャップが生じている。生徒の日常生活の情報発信不足と生活習慣の定着不足の両面を考察する必要がある。</li> <li>●公共マナーの遵守では、通学マナーに関する苦情もあり、引き続きの指導が必要である。</li> </ul>	生徒 3.26	生徒 3.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常生活の指導（礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみ、公共マナーなど）において、生徒・保護者・教職員の評価でギャップが生じていることから、更なる指導の充実と保護者への情報発信を実施し理解促進を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒指導部と学級担任が連携し、礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみなど生活の基本を身につけさせ、各家庭でも成果が実感ができる指導を実施する。</li> <li>●通学マナー向上については、各通学手段に応じた指導を行うとともに、JRや警察など外部機関の協力を得た指導を実施し、苦情件数「0」を目指す。</li> <li>●問題行動のある生徒には保護者との面談を実施し、学校と家庭が連携して生徒の改善を図っていく。</li> </ul>	-	-
					保護者 3.14	保護者 3.11				
					教職員 2.90	教職員 2.91				

2018年度学校評価（自己評価と第三者評価）

東海大学附属熊本星翔高等学校

分野	重点目標	取組み計画・内容	自己評価（4段階評価：4. そう思う、3. だいたいそう思う、2. あまりそう思わない、1. そう思わない）				次年度	第三者評価		
			成果	課題	2017年度	2018年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
進路指導	●上級学校への内部進学者を一定以上確保する。	(1)進路に関する情報提供に努める。 (2)進路に関する指導・面談に努める。	●進路指導部、学級担任、部活動顧問が連携し、約50%が東海大学へ進学している。 ●進路に関する情報提供、指導・面談では、生徒から評価を得ているが、前年度より微減となった。 ●各業界で活躍する卒業生による、高校生活の過ごし方から進路・職業選択に関するキャリア教育講座「先輩学講座」を継続的に実施している。	●進路に関する情報提供・指導・面談では保護者からの一定の評価は得ているが、生徒の評価が昨年度の評価ポイント微減ではあるが下回った。また、指導側の教職員のポイントは微増している。僅かながら教職員と生徒の受け止め方にギャップが生じており、その原因の究明と改善を図る必要がある。	生徒 3.09	生徒 3.06	●東海大学の概要や魅力については、生徒・保護者とも理解を得ているようであるが、東海大学以外の進路希望者への情報提供ならびに面談指導の更なる充実を図り、進路指導における保護者の理解促進を図る必要がある。 ●近年の女子生徒の増加に伴い、東海大学を含めた4年制大学への進学が若干減少傾向にある。女子生徒への進路指導の充実を図る必要がある。 ●進学・就職に係わらず生徒の希望を叶える指導を実践していく。	●進路指導部と学級担任との情報連携を密にすることで、東海大学の魅力と進学のメリットを生徒・保護者に正確に伝え、4年制大学進学率の向上を図る。 ●女子生徒の東海大学への内部進学向上のための学部・学科の情報提供を行う必要がある。 ●東海大学以外の大学、専門学校、就職等生徒個々の進路希望に応じた適時かつ適切な情報提供を実施する。 ●生徒の進路希望先と現状にギャップがある場合、三者面談を密に行い進捗状況を確認していく。	-	-
					保護者 3.06	保護者 3.06				
					教職員 3.15	教職員 3.25				
特別活動	●部活動の更なる推進を図る。 ●生徒会活動の充実を図る。	(1)学校行事、生徒会行事への積極的な参加を促す。 (2)教職員は部活動の指導に熱意を持って取り組む。 (3)学習時間の確保に配慮しつつ部活動の成績向上を図る。	●学校行事、生徒会行事への積極的な参加では、生徒から高い評価を得ている。 ●部活動の指導では、生徒・保護者とも高い評価を得ている。 ●本年度、部活動における練習終了時間、休日の設定を推奨し、教職員の働き方改革と生徒の学習時間確保の取組みを開始したが生徒、保護者からは前年度同様の評価を得ている。	●学校行事、生徒会行事への積極的な参加では生徒、保護者からは前年度同様の評価は得ているが、教職員の評価ポイントが前年度を下回った。今後は、生徒・保護者のみならず教職員の評価ポイント向上のための内部的な取り組みを検討・実施していく必要がある。 ●部活動加入率が年々減少傾向にある。本校への帰属意識の向上と本人のコミュニケーション能力の向上のためにも部活動への加入促進を図る必要がある。	生徒 3.13	生徒 3.13	●部活動、生徒会活動における保護者とのコミュニケーションを十分に図るとともに、活動成果をHPなどを通して広く伝え保護者をはじめとする利害関係者へ広く伝え、更なる保護者への理解促進を図る必要がある。 ●部活動指導教職員の業務バランス(教科・分掌・部活動業務)の適正化に向けた検討を行い、部活動指導教職員のライフワークバランスと部活動指導の意欲向上を図る必要がある。	●部活動の練習方法を工夫することで、部活動での成績向上(勝利至上主義ではない)と学習時間の確保にも配慮し、更なる文武両道の実現を目指す。 ●活動の活性化のためにも部活動、生徒会への生徒加入率の向上を図る。 ●一年単位での変形労働制の導入に向けた検討を開始し、部活動指導者のライフワークバランスの改善を図る。	-	-
					保護者 3.08	保護者 3.08				
					教職員 3.28	教職員 3.23				
<p>【第三者評価委員による学校評価アンケート結果】（4段階評価：4. そう思う、3. だいたいそう思う、2. あまりそう思わない、1. そう思わない）</p> <p>第三者評価委員に対するアンケート調査結果において、一定の評価を得ているものの全項目にて前年度評価を下回る結果となった。</p> <p>○学校運営（2018評価3.4）（2017評価3.7）：「危機管理・完全対策への取組み」、「保護者や地域との連携や情報発信」が項目内の平均点を下回り、本校の教育諸活動が外部に伝わっていない部分がある。</p> <p>○学習指導（2018評価3.1）（2017評価3.2）：他の設問項目に比べ評価が低い。学習や基礎学力の定着は外部評価に繋がりにくい項目ではあるが、まずは自己評価における向上を図る必要がある。</p> <p>○クラス指導（2018評価3.3）（2017評価3.6）：クラス指導においても外部評価に繋がりにくい項目ではあるが、良好な人間関係が外部に与える影響は大きく、日頃からのクラス指導の充実を図る必要がある。</p> <p>○生活指導（2018評価3.2）（2017評価3.5）：「頭髮・服装・身だしなみ」は他の設問項目に比べ評価が低い。公共マナー遵守も含め学外における指導の徹底が必要である。</p> <p>○進路指導（2018評価3.5）（2017評価3.7）：東海大学の附属高校であることから大学進学実績もあり、進路に関する評価は得ている。</p> <p>○特別活動（2018評価3.5）（2017評価3.8）：部活動の指導では、各部活動の成果もあり高い評価を得ている。</p> <p>【第三者評価委員からの意見】</p> <p>○自転車通学マナーが随分よかった。生徒の対応も明るくなった。地域との連携もできています。制服の着こなしもよい。（自治会長）</p> <p>○挨拶、校内美化は良好。正門や学校周辺の清掃もお願いします。東バイパスの自転車斜め横断は危険なので指導してください。（N小学校長）</p> <p>○中学での研究発表への案内、高校の見学の機会など日頃からそれぞれの教職員が交流し研修を深める機会があれば良い。（N中学校長）</p> <p>○生徒はよく挨拶をしている。公共ルールのマナー順守の徹底をお願いしたい。（S駅長）</p> <p>●本年度（2018年度）第三者評価委員会では、生徒・保護者・教職員による学校評価アンケート集計結果から分析した自己評価ならびに次年度に向けた改善計画の説明、本校に対する意見聴取に留まる結果となった。次年度（2019年度）の第三評価委員会では、自己評価から得た自己評価ならびに改善策に対する妥当性についての評価体制を整え、学校運営の更なる改善を図っていく。</p>										